



天平5年(733)に編纂された『出雲国風土記』の仁多郡の条に、「諸郷より出すところの鐵堅くして、尤も雑の具を造るに堪ふ」と本地域で産する鉄の優秀性が記されています。

以来、千数百年にわたり営々と砂鉄を採り、炭を焼き、そして“たたら”を吹いてきた奥出雲町は、たたら製鉄とともに悠久の時を刻んできました。

今日、奥出雲町をつぶさに見渡すと、そこには、たたら製鉄の記憶が鮮明に映しだされ、先人たちの知恵と工夫、そして苦勞の足跡が残っています。これが、たたら製鉄(産業)と自然が織りなした「奥出雲たたら製鉄と鉄穴流しの棚田景観」なのです。

シンポジウム たたら製鉄で育まれた文化的景観の価値とその意義



日時 平成25年12月8日(日)13:30~16:00 (開場 13:00)
場所 奥出雲町立横田コミュニティセンター大ホール

基調講演



●文化的景観の価値と素晴らしさ
 講師 文化庁記念物課 調査官 市原 富士夫氏
 文化的景観とは、時代を越えて日々の生活に溶け込みながら形成されてきたもので、見慣れた風景であるため見過ごされがちな存在です。しかし、ここに価値ある素晴らしい景観が潜んでいます。

調査成果報告

奥出雲町文化的景観の調査成果で見えてきたもの



●各鉄師のたたら経営と地域社会
 広島経済大学大学院教授 相良 英輔氏
 各鉄師のたたら経営は、地域社会と密接に関係していた。そして今日も時代をこえて、そのままのたたら景観が残っている。



●奥出雲の地質と鉄穴流し跡の景観構造
 島根大学教授 林 正久氏
 奥出雲の大地は、数百年にわたり連綿と鉄穴流しが稼業され、特異な景観を形成してきた。これは、たたらジオパークともいえる。



●奥出雲仁多米のおいしさの秘密
 東京農業大学教授 高橋 悟氏
 「奥出雲仁多米」のおいしさの秘密について、鉄穴流し跡の棚田を現地調査し、科学的見地から分析した。この成果を報告する。



●たたらが息づく奥出雲の文化的景観
 島根県教育庁文化財課企画幹 角田 徳幸氏
 奥出雲には、全国唯一ほぼ完全な形で残る島上木炭銑工場をはじめ、たたら関連の遺構が今日も多く所在し、景観を特色づけている。

パネルディスカッション

たたら製鉄と鉄穴流し棚田の文化的景観」を未来へ



●コーディネーター
 広島大学大学院教授 中越 信和氏
 奥出雲町文化的景観調査検討委員会委員長。
 専門は景観生態学。
 元国文化審議会天然記念物委員会委員長・文化的景観委員会委員。

●パネラー
 文化庁記念物課調査官 市原 富士夫氏
 広島経済大学大学院教授 相良 英輔氏
 島根大学教授 林 正久氏
 東京農業大学教授 高橋 悟氏
 国選定保存技術保持者 木原 明氏
 島根県教育庁文化財課企画幹 角田 徳幸氏

文化的景観とは、先人たちが日々の営みにより自然に働きかけながら、少しずつ長い歳月を経てつくりあげたもので、地域の人々の生活や生業および当該地域の風土によって形成された景観を指し示すものです。

したがって、私たちは生活の中に溶け込んでいる景観を、何ら意識せず日々すごしています。それゆえに文化的景観は、認識されにくいものです。しかし、ここに地域それぞれの歴史が景観に刻まれ、今に息づいています。